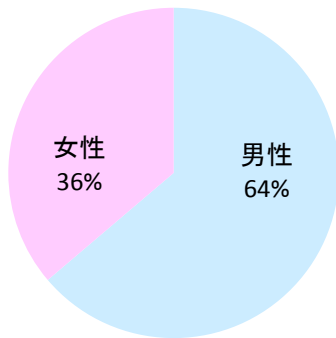


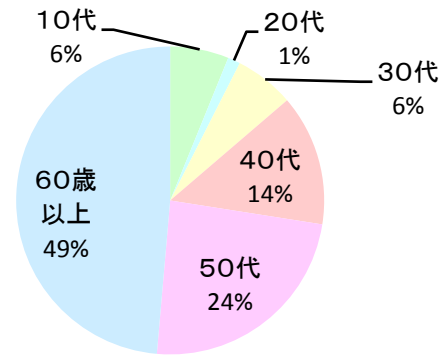
8月11日に駿河湾で発生した地震に関するアンケート集計結果

<アンケート基本情報>

性別



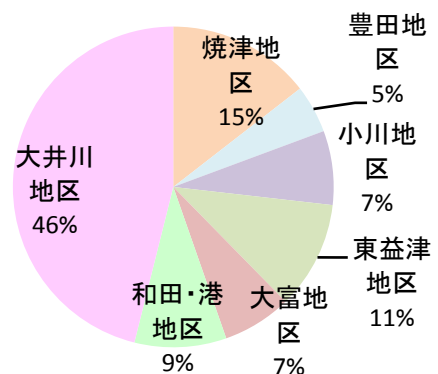
年齢



年齢	性別	焼津地区	豊田地区	小川地区	東益津地区	大富地区	和田・港地区	大井川地区	計
10代	男性	15		1	3			40	59
	女性	18			3		1	46	68
	不明								0
	計	33	0	1	6	0	1	86	127
20代	男性	2						8	10
	女性	3		1	3		2	8	17
	不明								0
	計	5	0	1	3	0	2	16	27
30代	男性	6	2	3	4	2	4	36	57
	女性	11	1	7	3	7	10	33	72
	不明								0
	計	17	3	10	7	9	14	69	129
40代	男性	13	7	10	15	7	13	81	146
	女性	22	1	18	9	15	17	55	137
	不明						1		1
	計	35	8	28	24	22	31	136	284
50代	男性	31	11	17	26	18	22	191	316
	女性	20	5	22	15	16	25	74	177
	不明								0
	計	51	16	39	41	34	47	265	493
60歳以上	男性	117	62	41	88	64	74	278	724
	女性	40	10	34	53	15	22	100	274
	不明	1	1		2			1	5
	計	158	73	75	143	79	96	379	1003
合計	男性	184	82	72	136	91	113	634	1312
	女性	114	17	82	86	53	77	316	745
	不明	1	1	0	2	0	1	1	6
	計	299	100	154	224	144	191	951	2063

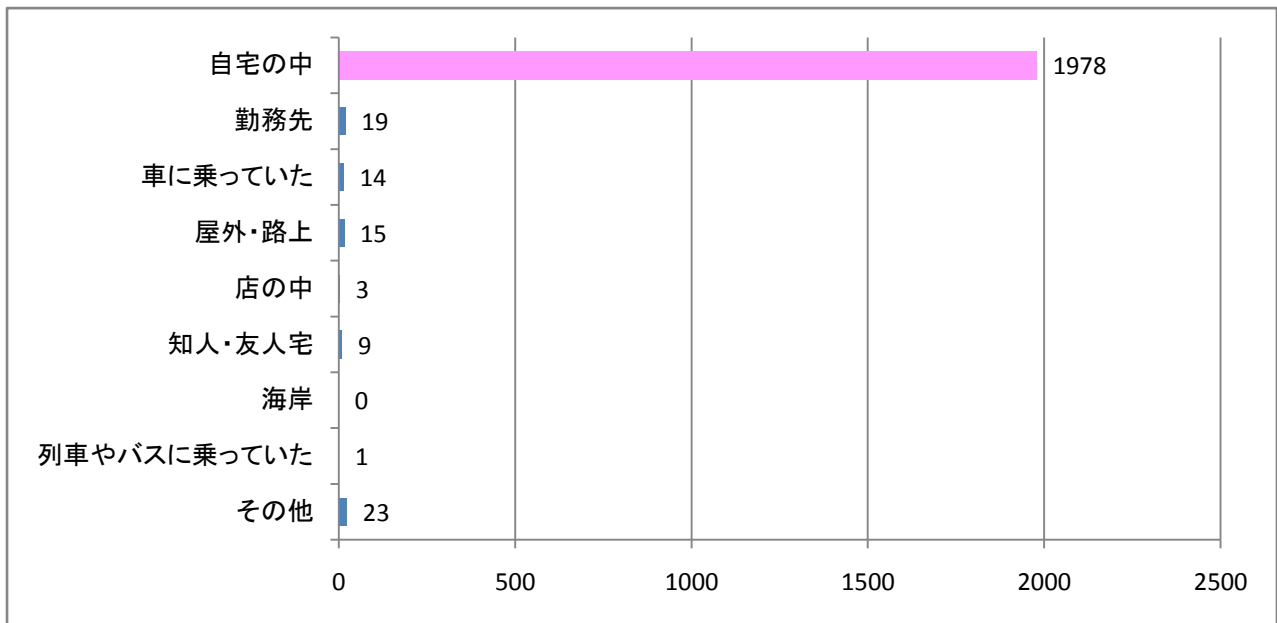
平成21年8月25日から平成21年8月30日まで実施し、**2,063件**の回答をいただきました。
内訳としましては、左図のとおりであり、市内の各地域より回答をいただくことができました。

いただきました回答は、今年の6月に行ないました同様のアンケート「焼津市防災意識調査」に対するご回答との比較を交えながら、集計させていただきました。



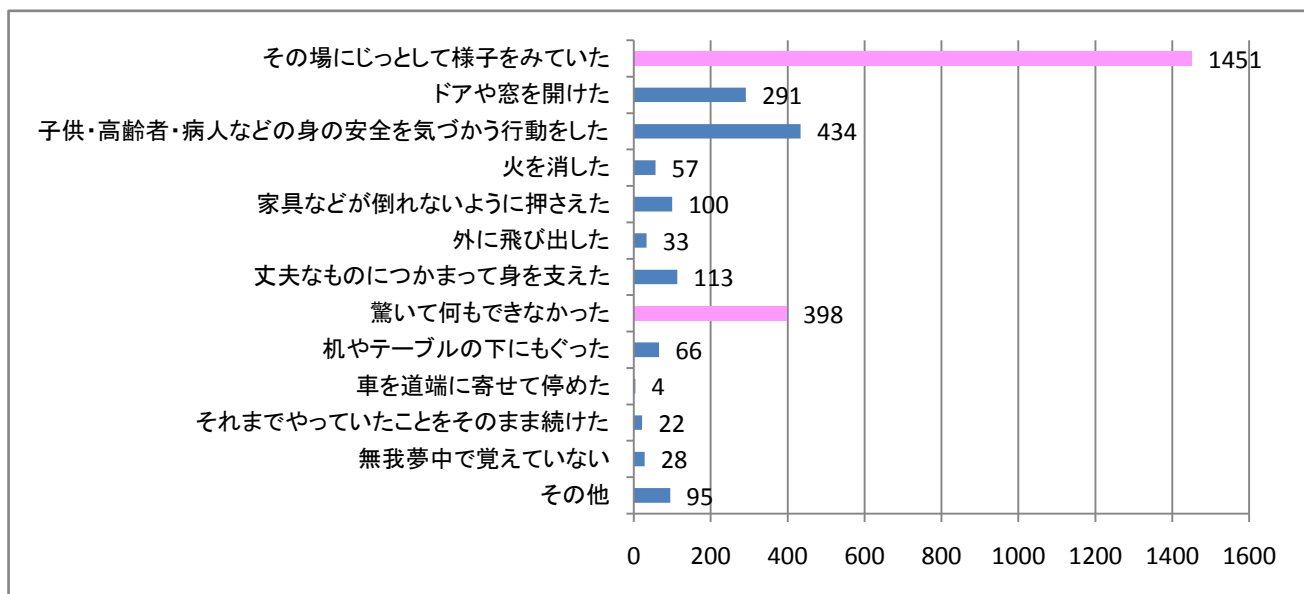
<地震発生時の行動>

問1 地震が起こったとき、あなたはどこにいましたか。



地震発生時の居場所としては、午前5時07分の発生ということもあり、ほとんどの人が「自宅の中」にいたとの回答で、全体の96%を占めました。

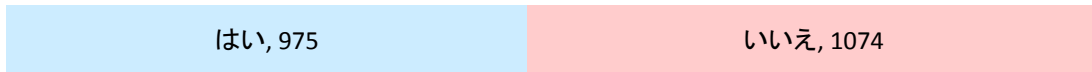
問2 地震が起こったとき、あなたはとっさに何をしましたか。



地震発生時の行動については「その場にじっとして様子を見ていた」が1,451人と最も多く、次いで「子供・高齢者・病人などの身の安全を気づかう行動をした」、「驚いてなにもできなかった」、「ドアや窓を開けた」となっています。

また、「その他」の行動をとられた人もおり、そのうちの多くの方が「ラジオ・テレビをつけた」、「枕・ふとんをかぶり落下物に備えた」、「火元の確認を行った」、「風呂に水を溜めた」といった行動をとったとの回答でした。

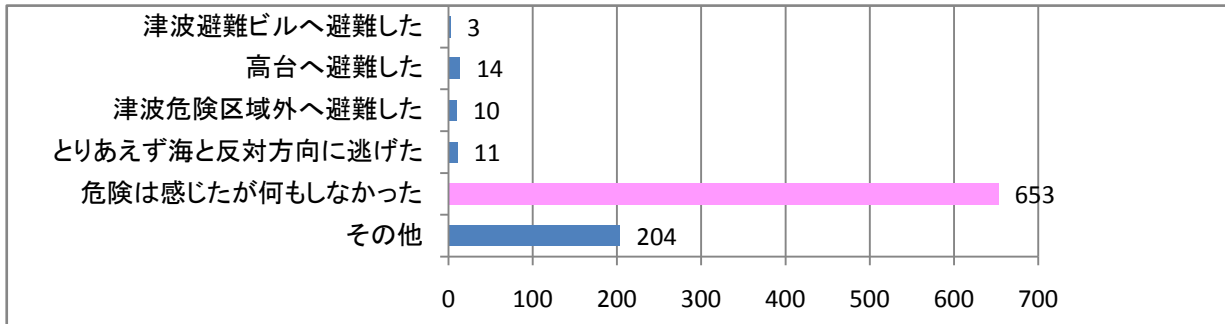
問3 地震が発生した時に津波の発生の危険性を感じましたか。



回答をいただいた半数の方が、地震発生時に津波の発生の危険性を感じており、津波に対する危機意識の高さがうかがえました。

8月11日に発生した地震では、地震発生19分後に、およそ0.3mの津波の到達が確認されています。

問3-2 問3で津波の危険を感じた方はどのような行動をとりましたか。



沿岸部の区域には津波危険区域が設定されていますが、危険区域から外に出た人はほとんどおらず、危険を感じていても、避難行動をとられた方はほとんどいませんでした。

実際に、地震発生後の市の集計では、津波危険区域内で避難場所へ避難された方は、焼津東小学校の4名とディスカバリーパークへ避難された1名にとどまりました。(災害対策本部設置時にいった情報のみ集計)

また、「その他」の行動として「テレビをつけた」や「自宅の2・3階へ上がった」、「避難準備をし、情報を待った」といった行動をとられた方もいました。

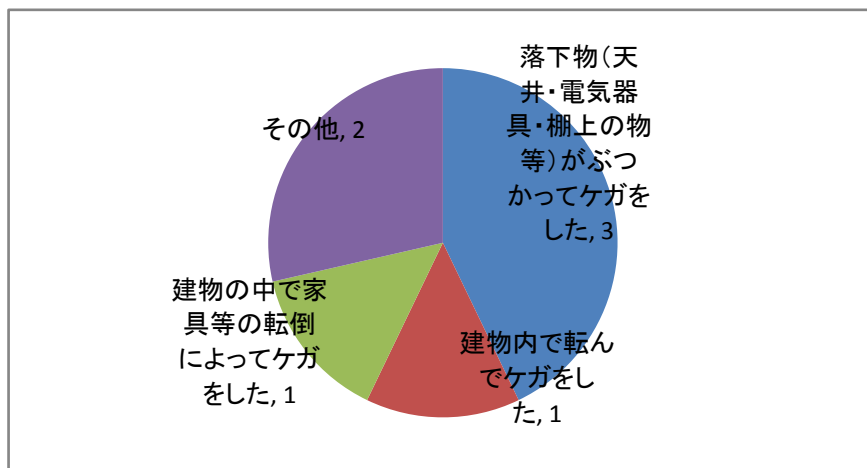
<地震発生によるケガ・被害>

問4 地震によって、ご家族などにケガ人が出ましたか。



※ 自宅で治療可能な軽度なケガを含むため、焼津市の人的被害報告数字とは一致しません。

問4-2 問4でケガをされた方は、どのような理由でケガ人がでましたか。



※ケガの理由については7名の方のみ回答がありました。

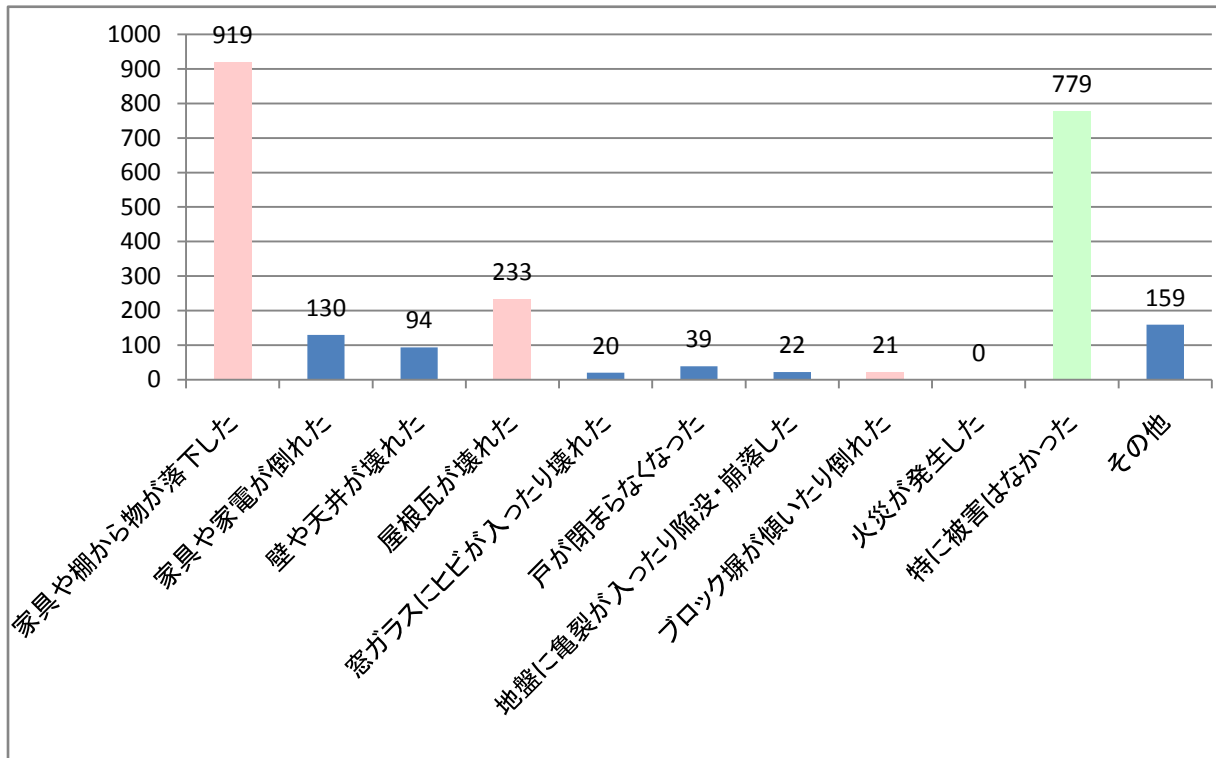
ケガをされた方の多くは、落下物によるもので、地震直後の病院への搬送者もテレビ等の落下物による打撲等をされた方がほとんどでした。

今回の地震では、発生した時に外が暗く、建物への直接的な被害が少なかったこともあり、建物の外でケガをされた人はほとんどいませんでした。

- 焼津市内の人的被害 24名
(うち軽傷者23名 重傷者1名)
- 焼津市立病院 16名
- 藤枝市立病院 4名
- 甲賀病院 3名
- 吉田整形外科 1名

※ 地震に起因する救急搬送者等数

問5 お宅ではどのような被害がありましたか。

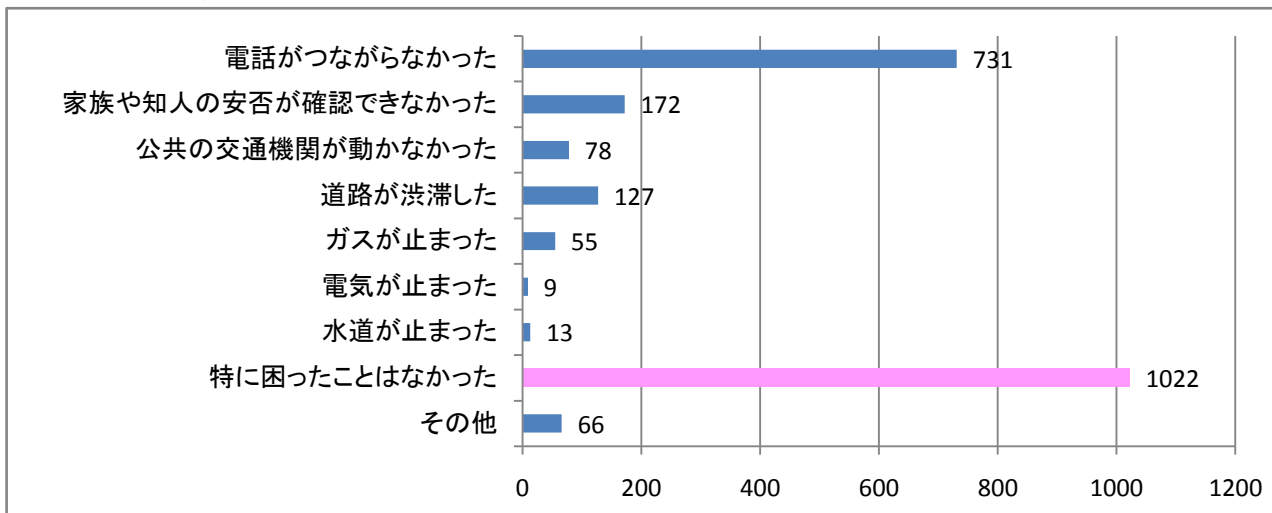


今回の地震は揺れの幅が小さかったことから、建物の躯体に対する被害はほとんどみられなかったが、屋根瓦の落下やブロック塀の倒壊の情報が発生当時より寄せられていた。

アンケートの集計結果においても「家具や棚から物が落下した」や「屋根瓦が壊れた」は目立つものの、火災の発生はありませんでした。

また、「その他」の回答の半数は「食器・コップが割れた」であり、次いで「水槽の水がこぼれた」、「風呂場のタイルにヒビが入った」、「墓石・石灯籠が倒れた」といった回答を多くいただきました。

問6 あなたが地震発生後に困ったことはどのようなことですか。



地震発生直後に困ったことは「特に困ったことはなかった。」が最も多く、次いで「電話が繋がらなかった。」という結果でした。

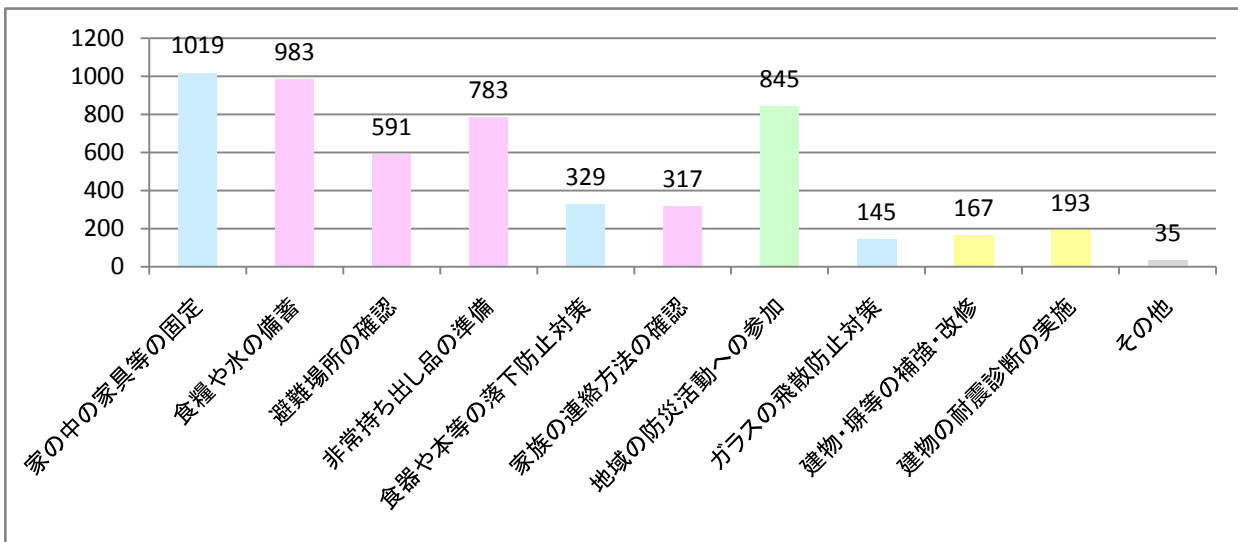
今回の地震では、地震直後は電話が繋がりにくかったが、ライフライン等に大きな被害がなく、通常の生活を地震後に送ることができたため、それほど困ったという感覚に襲われることがなかったと推測されます。

しかし、想定される東海地震は今回の地震の180倍の規模であると言われていることから、電話や電気は使用できないことが予想されます。

もし、今回の地震発生時に電気の点かない状態であったとしたら、ケガをされた方が多く出た可能性もありますし、電話が繋がらなかったとしたら、ほとんどの情報伝達ができなくなったと考えられます。

日頃より、家族の安否確認の方法の話し合いや、避難用の非常持ち出し品の備え付けを行ないましょう。

問7 お宅では地震発生前にどのような対策を講じていましたか。



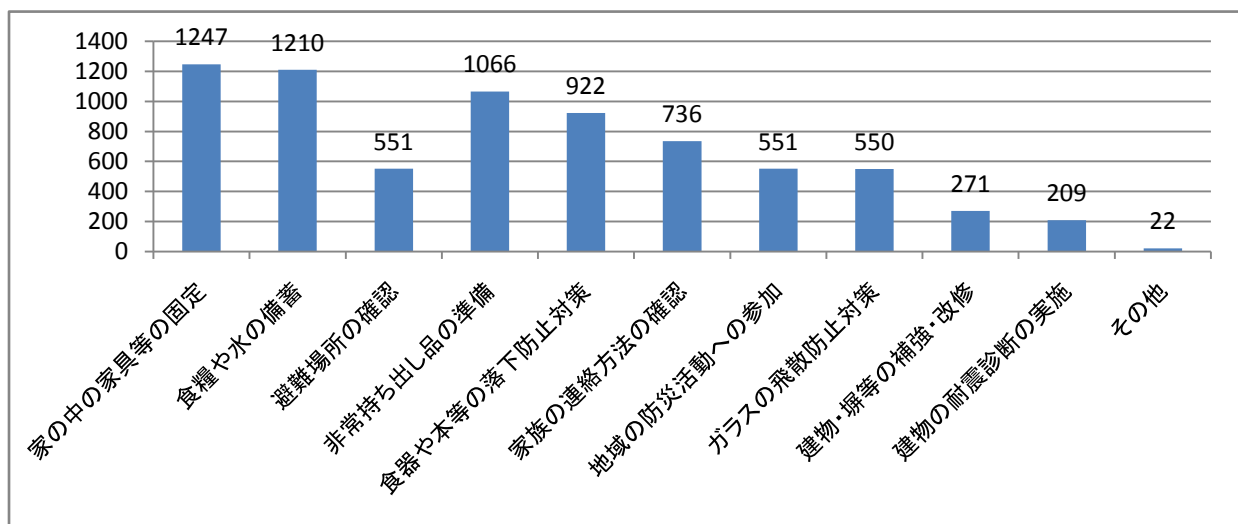
今回の地震の発生前から行なっていた対策としては「家の中の家具等の固定」が最も多く、次いで「食糧や水の備蓄」、「地域の防災活動への参加」でした。

また、「その他」として「家を建て替えた」、「寝室に物を置かないようにした」との回答が多くみられました。

「食糧や水の備蓄」については、およそ半数の家庭が行なっているとの回答をいただきました。6月に行なった防災意識調査での集計においても約80%の家庭で「食糧や水の備蓄」をしており、45%の家庭で3日分の食糧、30%の家庭で3日分の水を備蓄しているとの集計がされていました。

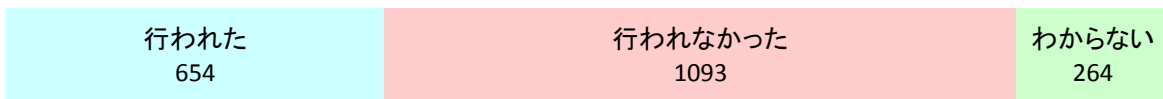
「非常持ち出し品」の備え付けも38%の世帯で実施され、「懐中電灯」、「携帯ラジオ」、「リュックサック」といった物を用意しているとの結果でした。こちらは6月に行なった防災意識調査での集計では、60%の家庭で持ち出し品を用意していると回答していました。

問8 今後お宅で対策を講じたいと考えていることはありますか。

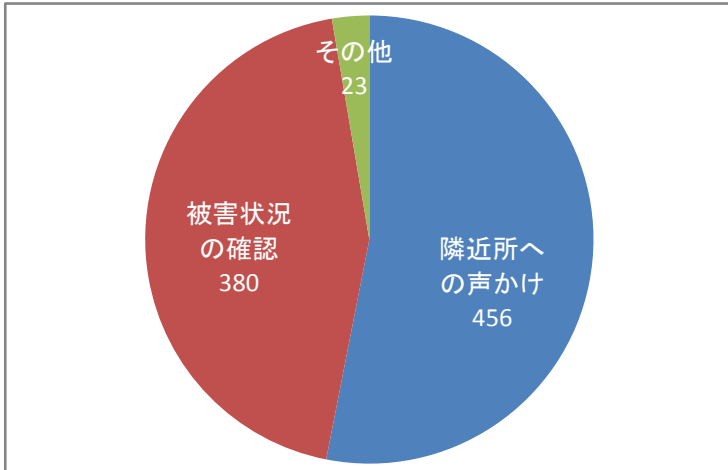


今回の地震を体験されたことにより、「食器や本等の落下防止対策」の実施を検討された方が多くみられ、地震発生以前より意識の高かった「家の中の家具等の固定」、「食糧や水の備蓄」、「非常持ち出し品の準備」と同程度の回答をいただきました。

問9 地震直後、ご近所と協力して安否確認などの行動が行われましたか。



問9-2 問9で地域での防災活動は、どのような活動でしたか。



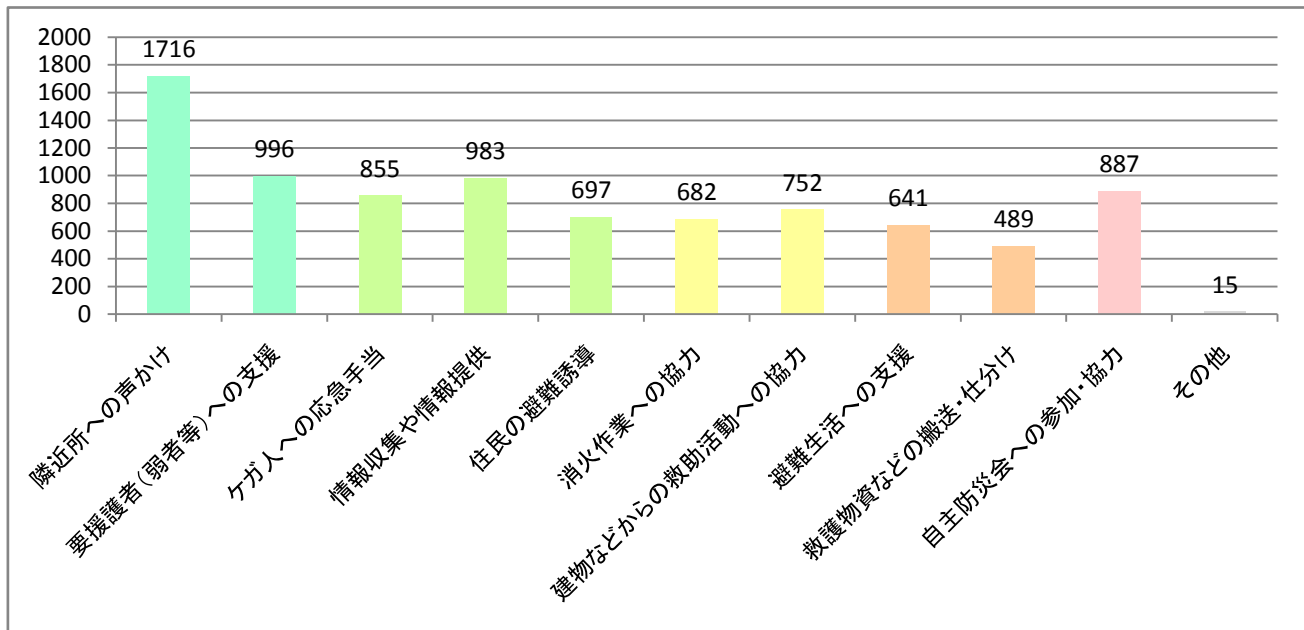
地震の発生時に、「近隣への声かけ」が456件、「被害状況の確認」が380件行われていました。

また、地域の防災活動として行われた活動として、

- ・がれきの片付けを行った
- ・一人住まいの安否確認を行った
- ・町内会長が巡回してくれた
- ・民生委員が安否確認の電話をしてくれた
- ・身内の安否確認を行った

といった活動も挙げられました。

問10 どのような地域での助け合いが必要だと感じますか。



その他の助け合いとして

- ・安否確認するために、旗を利用すれば確認の時間が短縮できると思う
- ・災害ボランティアに所属しているので強力参加協力したい
- ・出来ることは全部やらなければならないと思う。その時が来たら協力できると思う。
- ・他力でなく、自分で努力する。自分の家はまず自分で
- ・地域住民で出来るレベルの救護・支援・協力
- ・地域住民の有資格者の一覧(地図上表示、看護師など)
- ・隣組みの役割が重要。組単位の組織作りが必要
- ・今回の180倍の規模ならば個人では何ともできない。行政がどう対応してくれるかに期待する。

といった回答もいただきました。

問11 今回の地震災害を経験して感じたことはなんですか。

3、4日分の食料を持って避難するのは無理だと思った。

いざというときは動けなかったのでテレビ、ラジオの情報は大事だと思う。

いざとなると自分や家族の身の安全を守ることで精いっぱいだった。今回は早朝ということもあり、家族全員が家の中に居たが、それぞれ会社や学校へ行っていたらどうだろうかと話し合う良い機会になった。

いつ地震が起こるか分からないので備蓄が必要だと思った。以前より防災意識が高まった。

オオカミ少年になりかけていた東海地震を改めて実感しなおした。危機感再認識！

このような大きな地震は生まれて初めての体験だった。日頃防災に関してすっかり意識が希薄になっていたことを反省し、今一度自主防災に取り組みたいと思う

これだけの揺れは初めての経験だった。おさまった後、外に出て棟瓦のずれが危ないと思った。近所の家でも屋根に多少の被害があった。揺れに驚いて外へ飛び出すのは危ないと思った。頭の保護が必要だと感じた。常に準備しておくことが必要

その場に居ると体が動かなくなる。特に老人が多い所は心配。物が落ちる心配があるので特に耐震の準備が必要。実際に起きれば個人の今は個人で守るという考えが必要と思う。

テレビの情報も助かったが、小型ラジオが役立った。電気、水道が止まらなかったのがパニックにならなかった。津波の危険を予測して避難するか否か判断が難しい。予備の靴を寝室に置いておきたい。

とっさに何も行動出来なかった。訓練不足を感じた。家具の固定の徹底と突発地震の初期対応への訓練が必要

ブロック塀の倒壊についてどこへ連絡すればいいのか分からず、困った。市の協力は得られないことを実感した。地域の人が親切で助かった。普段から地震に対する心構えをし、危険な物は処分しようと思う。

まず、自宅の対策を完全にしておきたい。そして地域の活動に協力していきたい。

もっと長く揺れたら被害はもっと大きかったと思う。

安否確認の情報集計など。地域での防災活動の重要性周知。食糧や水など備蓄また非常持ち出し品の準備

一人暮らしのため精神的不安が大きく、怖さがずっと付きまとっている。

一番に、津波からどうやって助かれればよいか考えた。近所に建設中の公会堂に外階段をつけて屋上へ逃げられるようにすればよいのかも。防災訓練は、もっと津波対応をした方がよい。各戸に、有償でもいいからヘルメット・救命胴衣を配布してほしい。

何もできなかった。色々な事を考え直さなければと思う。防災活動へ参加など協力しながら安全を保ってきたい。これから水の備蓄を始めたい。

家の中の家具な配置を考え直し、物の整理をする。東海地震は180倍と想像もできないのでわからないが、いろいろな意味で教訓になった。

家具の固定をしなかった為に、大地震では怪我や命を奪われてしまうのだと実感した。ちょっとしたことで命を守られるのだから、家具の固定はしようと思う。

改めて地震の怖さを実感した。東海地震への備えをしっかりとしたい。

緊急地震速報の受信を可能にしたい。

近隣地区は老人が多いので大地震の時は自分の身を守るだけで精いっぱいだと思う。隣近所の声掛けくらいしかできない。

今までにないほどの大きさだったけれど地震後も不便なく過ごせたことは運がよかったと思う。他人事でないが、親と子供がいるので心強いというか半分怖いながらも「家が壊れないで」と願っていた。その後の余震にも敏感になったが、家での準備はまだまだ不十分。東海地震について今回の事ではいい勉強になった。

今まで経験したことがない大地震だったのでどうしていいのかわからなかった。これ以上ひどい地震の時持ち出しは不可能。避難は着のみ着のままになると思う。

今回の180倍の地震が来たら耐震住宅でも本当に安全なのか？

今回の地震の180倍では家屋の倒壊は避けられないし津波も心配。何としても予知に力を入れてほしい。

今回の地震は被害も最小だったが、東海地震は予想以上の物でライフライン停止状態が続くと思われる。個々の必需品に留意した対策を早急に講じる様今一度点検をして努力したい。

在宅介護の高齢者がいるので避難場所までどうして行くか心配。

子供が一人で留守番をしている時に地震が起きたら身を守れるのか心配

自治会・町内会での安否の確認、被害状況の確認が全くなかった。地域の地震時の活動の仕方、指示はどうなっているのだろうか。震度6弱でも全く発動されなかった。

自治会役員をしているが、どの程度の被害で避難するのかその判断が難しいと思った。丁度大雨の時で町内の被害確認が大変だった。民生委員が独居老人宅訪問を依頼した。

自主防災会活動の始動はどのような場合に出来るのか疑問。なぜなら、自主防の役員も地震の家や家族が気になるはず。

自分のことは自分で。災害は全員の身に降りかかるので、人を頼りにできないと感じた。家庭内でも地震発生時どうするか話し合いが必要。瓦が落ちた家が多いので、あわてて外に飛び出すのは危ないと感じた。最低限の予防はしておきたい。

自分の身はどうしたら守れるか、もっと強い地震の場合不安。耐震工事・家具の固定はしたが。自分や家族が無事なら、次に周りの人を助けたい。

初めて震度6弱を経験し、家屋が倒壊する感じたが、揺れがおさまったのでほっとした。あと数秒続けば被害も必ず出たと思った。テーブルの下にもぐって椅子を防御にして、テレビを見ていたらテレビが前後に揺れ、倒れる直前でおさまった。周囲の置物はテレビ台から落ちた。そのため、家の中の家具家電は固定し転倒防止措置をしておくことが被害を最小限にする対策であると感じた。

昭和19年の東南海地震を体験しているのでその時ほどの恐怖感はなかった。その時の恐怖感は今でも忘れ難い。想定される東海地震は先日の地震より大きいと予想されるので、まず、身の安全を確保し、家の倒壊を念頭に置き落ち着いて行動し、津波対策を最重点に考え、家族の生き残りを図りたい。

消防団の巡視対応が早かったのは心強く、感謝している。

情報収集のためのルール作りが必要。(組単位、町内会単位、自治会単位、地区単位での情報発信、タイミングなど)

第一に自分の身を守ること、後はそれからの行動だと感じた。

地震が終わった後でも3週間くらい余震の恐怖が続いた。高齢者への心のケアが必要

津波の危険を感じても避難するために外へ出るほうがリスクが高いように思う。とっさの判断や行動はできないものだと感じ、家族や地域との連携が必要。

地震発生後どこにいても耳で聞けるような情報が欲しい

NTT伝言ダイヤル「171」の体験チャンスを毎週1回設けてほしい

屋根瓦が壊れた時、雨が降っていたのでシミができてしまった。誰もブルーシートをかけてくれなかった。消防署でやってほしかった。個人で出来るわけがない。

広報(同報無線)が聞き取りにくい。家の中にいるとさらに聞こえない。

津波の情報、地震の情報(事前情報)等夜間でも同報無線で流してほしい。また、聞き取りにくい地域に対し改善を願う